

# 須坂はどんなところ

## —地域学習のための教材として—

石澤 孝 社会科学教育講座

### I はじめに

中学校社会科地理的分野の学習指導要領では、4つの目標が設けられている。その第4目標（地域調査）は地理的分野の学習を通して生徒が身につけるべき望ましい能力と態度を示したものであり、4つの部分から構成される。その最初の部分に「地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高める」ことが記載されている。また、指導内容として、3つの大項目が設けられている。その第2大項目のなかの（ア）身近な地域については、「身近な地域における諸事象を取り上げ、観察や調査などの活動を行い、生徒が生活している土地に対する理解を深めさせるとともに、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身につけさせる。」と記載されている。指導要領の第4目標そしてまた指導内容の第2大項目（ア）は、「激しく変容している地域の実体を観察や新旧の地図を比較し関連づけることによって、生活している土地に対する理解を深めさせる」こととまとめられる。

また、小学校学習指導要領（社会）の小学校社会科第3学年および第4学年では3つの目標が設けられている。その第3目標は「地域における社会的事象を観察、調査し、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、調べたことを表現するとともに、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力を育てるようにする。」ことである。指導内容としては、6つの大項目が設けられている。その第1大項目は、身近な地域や市（区、町、村）の様子を観察・調査し地域の特質（地域性）を考えさせるようにすることである<sup>1)</sup>。したがって、中学校社会科地理的分野の学習指導要領の第4目標、指導内容の第2大項目（ア）は、小学校学習指導要領（社会）の小学校社会科第3学年および第4学年の目標・内容を発展させたものと解釈することができる。

さらに小学校第1学年および第2学年の履修科目である生活科の学習指導要領では、「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う」ことを大きな目標としている。これらを達成するために、具体的な3つの目標が設けられ、その第1目標は、後半部の「適切に行動できるようにすること」を除けば、従前の低学年社会科の地域学習に相当するものと考えられる。具体的な内容の第3項目についても同様である。

すなわち、小学校低学年から中学校までの間に、具体的な観察調査を通じた地域学習が求められている<sup>2)</sup> のであり、このような地域学習を実践するためには、適切な資料の選択とその利用のあり方が重要となることはいうまでもない。これらのことを踏まえ、教師が簡便に作成可能なGIS的手法を活用した地域変容の把握のための資料作成について検討を加えた（石澤；2002, 2003b）。ここでは「子どもたちが、どのような資料をどのように活用すればよりよく地域を理解できるか」を考えるための地域資料の活用法について、須坂を事例として述べてみたい。これらのことから第II章では、わかりやすい平易な文体で表記することにした。

## II 須坂はどんなところ、どうなればいい

### 1. 須坂を知るためには

#### (1) 須坂はどんなところ

「須坂ってどんなところですか。」と聞かれたら、何と答えますか。蔵の町、城下（陣屋）町、臥竜公園があるところ、米子大滝があるところ、さまざまな答えが返ってくることでしょう。

では、「須坂をどうしたい。どうなったらいい。」と聞かれたら……。住みやすい町になってほしい。長野のような、にぎやかな町になってほしい。中野のような大きな店がほしい。答えるのは、先ほどよりちょっとむずかしいかもしれませんね。

2つの質問に答えるためには、まず何と言っても須坂のまちの実態を知らなければなりません。それでは、須坂のまちの実態を知るために、そして須坂の地域を理解するためにはどのような資料があるのでしょうか。そしてまた、それらの資料をどのように活用すればいいのでしょうか。それらのことについて述べることにします。

#### (2) パソコンとインターネット

あなた方の中には、すでに学校で、パソコンの使い方や利用の仕方を学んだ人もいることでしょう。パソコンは、使うソフトによってさまざまに活用することができます。文章を作成するためのワープロソフトや、資料を整理するための集計ソフトやデータベースソフト、そしてお絵かきに使うグラフィックソフトなどです。

最近、IT革命という言葉が使われだしました。ITとは「情報技術」という意味です。ですからIT革命を簡単にいえば、「パソコンをネットワークに接続する技術が以前に比べて革新的によくなった」ということになります。インターネットという言葉を知ることがありますね。ネットワークに接続することにより、インターネットやメール交換をすることができるのです。これによって、家庭にいながらにして、さまざまな情報を簡単にそしてすぐを得ることができるようになったのです。

「ブロードバンド」という言葉も最近よく耳にしますね。これまで、一般の家庭でパソコンをネットワークに接続するには、「モデム」で電話回線に直接つなぐのが普通でした。1990年頃の通信速度は400bps (bps: 1秒間にやりとりできる情報量) とか1,200bpsでも早いほうでした。モデムが改良されてファックスと同じ9,600bpsまたは14,400bpsの速度が得られるようになり、1995年頃には28,800bpsまで通信速度が高められました。とはいうものの、使った時間だけ電話代がかかってしまうため、常に接続することは現実的ではなかったのです。

常につないでいても一定の接続料金ですむ「常時接続」が可能になったのは、従来の電話回線（アナログ回線）ではなくISDNというデジタル回線による接続方法が使われてからです。5年ほど前のことです。通信速度も64kbps (1k≒1,000, 約64,000bps) と早くなりました。

数年前、画期的な接続方法が使われはじめました。従来の電話回線（アナログ回線）のままで常時接続・高速通信ができるADSLという方法です。最大1.5Mbps (1M≒1,000k, 約1500,000bps) の通信速度で、従来の28,800bpsに比べて何と52倍も早くなったのです。たとえていうならば、歩いて（時速5km程度）で行き来していた人が、時速300kmの新幹線に乗るようなものです。「歩いていける範囲の須坂周辺しか知らなかった人が、遠い東京に行き来してその様子を知ることができるようになった」、とともたえることができます。このような画期的に速い通信回線が「ブロードバンド」なのです。ADSLも改良が重ねられ価格破壊も進んで、最大で40Mbpsの通信速度を月額5,000円未満で利用で

きるようになりました。FTTH（家庭向け光ファイバー）という接続方法も整備されつつありますから、近い将来には通信速度はもっと速くなることでしょう。

このように、IT革命により通信速度が画期的に速くなったのです。視覚的には、パソコンの画面に徐々にしか表示されなかったホームページを、あまり待たされることなく瞬時にして視ることができるようになったのです。これにともなって、さまざまな情報がホームページという形（コンテンツといいますが）でデジタル化され、ネットワークで提供されるようになりました。従来は、印刷資料という形で提供され、図書館に行っただけでしか得られなかったものが、家庭にいながらして手に入れることができるようになったのです（もっとも、そのようなコンテンツがあればの話ですが）。

長々とITについての話をしてきました。須坂の様相を知るためには「須坂市が作成している従来の印刷された資料の他に、インターネットでも情報を手に入れることができる」ということを述べたかったのです。それでは、印刷された従来の資料やインターネットで入手できる資料として、どのようなものがあるのでしょうか。

### （3）須坂市などが出している印刷物

#### ①統計書など

まず、須坂市を概観できるものとして「須坂市政要覧」があります。この冊子には、須坂市を紹介する写真がたくさん盛り込まれており、見ながらにして須坂の概要を理解することができます。

「須坂市の人口は・・・」、「須坂市の産業は・・・」といった統計に関する資料として「須坂市の統計」があります。この資料の最初の部分には、「須坂市の地位—県内17市比較」や「須坂市の主要指標」というページがあり、須坂市の相対的な都市力を読みとることができます。須坂市の位置と行政区分を示した地図も載っています。縮尺が示された地形図でないのが残念ですが、須坂市の地域的広がりを概観することができます。また、須坂市の沿革も書かれており、過去の市町村合併の様子、たとえば元から須坂の一部と思われがちな大字小山や大字坂田地区が、1922（大正11）年までは豊丘村の一部だったこともわかります。続いていくつかの資料が載り、その後に基本的な統計資料が記載されています。

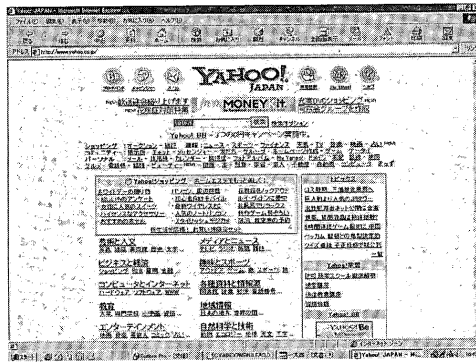
人口の推移や年齢構成、町別人口などについて知りたい場合には「人口」のページ、産業について知りたい場合には「事業所」や「工業」などのページ、駅別の乗降客数を知りたい場合には「建設・運輸・通信」のページ、予算・決算額を知りたい場合には「財政」のページをみればいいのです。

農業の様子についてより詳しく知りたい、工業や商業の様子についてより詳しく知りたい場合には、「須坂市の農林業」、「須坂市の工業」、「須坂市の商業」という資料もありますから、必要に応じてこれらを活用するといいいでしょう。

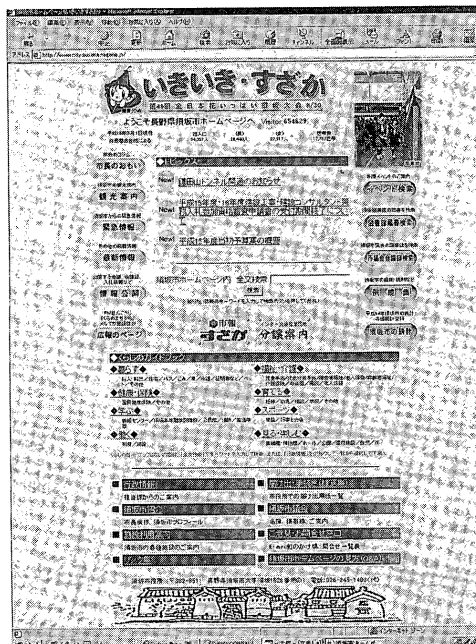
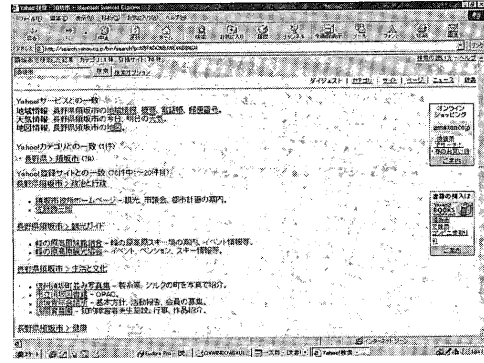
観光については多くのパンフレットが作られています。「須坂—信州蔵の町」もその一つです。四つ折りのA4版で、開くとイラストになった簡単な地図や市内循環バスの運行時刻、主な観光地の説明が載っています。須坂というと蔵の町といった連想につながる啓蒙に一役買っている資料です。以上のものは、市役所で手に入れることができます。

#### ②地図など

本屋さんなどで手に入れることができる須坂市に関する地図としては、道路地図のほか、地形図や地勢図があります。後者は国土地理院が作製している地図で、地勢図として20万分の1の縮尺の地図が、地形図として5万分の1や2万5千分の1の縮尺の地図があります。5万分の1地形図では、須坂市の中心部がほぼ6cm（実際は3km）四方の大きさに描かれ、1912（大正元）年から作成されていますので、過去の様子やその変化を知りたいときに活用できます。



第1図 ヤフー (yahoo) での検索画面



第2図 須坂市のホームページ

(<http://www.city.suzaka.nagano.jp>)



第3図 国土地理院のホームページ

(<http://www.gsi.go.jp>)

「家の住民の名前を知りたい」、「店の名前を知りたい」といった場合には市販の住宅地図を活用すればいいでしょう。過去のものと比較することにより、「お店が新しくできた」、「お店がなくなってしまった」などの地域の変化を探ることができます。住所を知りたい場合には電話帳も活用できます。ただし記載されていない家もありますので、使う場合には注意しましょう。電話帳の場合も、古いものと比較することによって地域の変化を探ることができます。

「都市計画の様子を知りたい」、「一軒々の家の配置や細かい土地利用の状況を知りたい」といった場合には、須坂市が作成している「都市計画図」や「都市計画基本図」があります。都市計画図では

用途（土地利用の種類）が色分けされて描かれ、わかりやすく読みとることができます。都市計画基本図は2千5百分の1の縮尺で作られ、実際の100mが地図では4cmに描かれています。いずれも市役所で手に入れることができます。

#### （4）インターネットを利用した資料の収集

つぎに、インターネットを利用して須坂市に関する資料を探してみましょう。インターネットをみるためのソフトをブラウザといいます。一般には、マイクロソフトインターネットエクスプローラー（MIE）やネットスケープというソフトが使われていますが、今回はインターネットエクスプローラーを使ってみることにします。

検索ページには、インフォシーク、エキサイト、グー、グーグルなどがありますが、ここではヤフー（<http://www.yahoo.co.jp>）を使ってみます。ヤフーのページにいくと、右端に検索と書かれた白枠があります。ここに検索する項目を入れるのです。枠の中に「須坂市」と入れて検索ボタンを押します（第1図）。たくさんのホームページが検索されました。「登録サイトとの一致」項目の右脇のこの中から、76件のホームページが検索できることがわかります（第1図）。この中から、須坂市のホームページをみてみましょう。

「須坂市役所ホームページ」にカーソル（点滅している矢印）を合わせてマウスの左ボタンを押します（クリックする）。須坂市のホームページが開きました（第2図）。2003（平成15）年3月現在の人口が54,354人であることがわかります。そのほかの統計資料をみたければ、右側緑色のボタン5段目「須坂市の統計」をクリックします。先程述べた印刷物とほとんど同じものを、閲覧できることがわかるでしょう。PDF形式（ネット用印刷形式）での統計冊子を手に入れることもできます。2001（平成13）年までさかのぼって「市報すぎか」を読むこともできます。これらを見るためには、アクロバットリーダーというソフトを入れておきます。観光マップや観光案内をみたければ左側オレンジ色のボタン2段目の「観光案内」をクリックすればいいのです。下の方をみると、様々な届け出用紙の様式を手に入れることができる、ということもわかります。

同じようにして「国土地理院」のホームページを検索してみましょう（第3図）。右側下にある緑色の「地理情報の閲覧・提供サービス」バーの9段目に「全国の2万5千分の一地形図を見る」というボタンがあります。本屋さんで購入しなくても全国の地形図を閲覧することができます。12段目の「図歴」をクリックすると過去の発行年も調べることができます。インターネットは便利なものですね。

## 2. 須坂を知ろう

### （1）須坂の相対的位置をさぐってみる

「須坂市の統計」によって、県内における須坂市の相対的位置を知ることができます。須坂市は、人口や従業者数では県内10位ですが、商品販売額では14位と順位が下がっていることがわかります。これは、県内の大都市長野市に隣接しているためなのです。村山駅前にあったジャスコがなくなってしまいました。長野市で買い物をする市民が多いため、人口に比べて商業が盛んではないのです。

ところで、一つの町には一つの市街地（中心市街地）が形成されているのが一般的です。このことを利用して、その町の成り立ちを探ることができます。一つの大きな町が周辺の小さな村を編入合併して成立した場合には一つの市街地が存在されますが、複数の大きな町が対等に合併して成立した場合には複数の市街地が存在するからです。

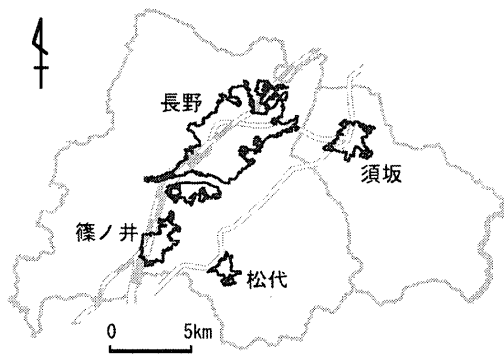
長野市と須坂市の市街地を示したのが第4図です。須坂市には市街地が一つしかみられないのに、長野市では長野のほかに篠ノ井と松代にも市街地があることがわかりますね。現在の長野市は、1996

第1表 主な市街地人口 (2000年)

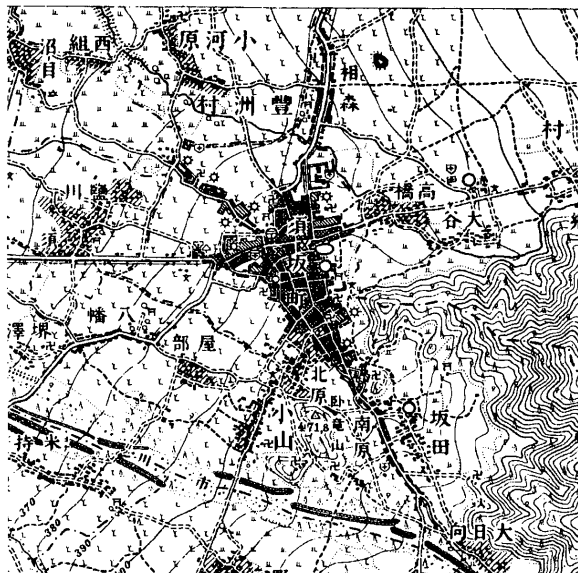
長野中心市街地	178,469 人
松本中心市街地	134,486
岡谷市街地	46,934
上田市街地	43,267
飯田市街地	38,597
篠ノ江市街地	28,140
須坂市街地	22,964
長野南市街地	20,843
下諏訪市街地	20,356
諏訪市街地	19,104

\*長野南は東北から稲里にかけての地域

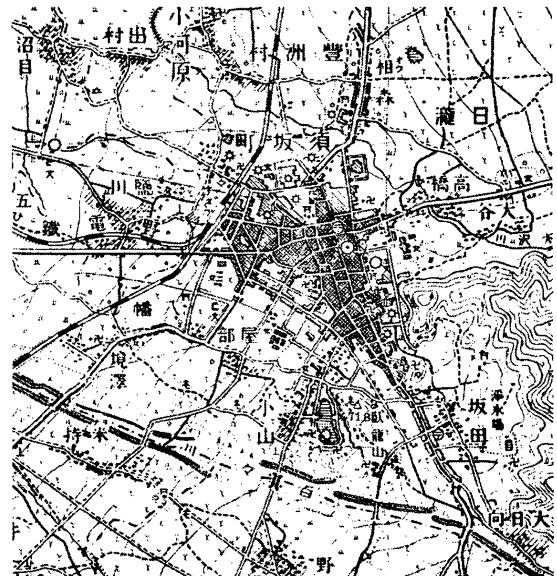
国勢調査より作成。



第4図 長野と須坂の市街地

人口集中地区 (<http://www.stat.go.jp/gis/h12/did/pdf/20.pdf>)  
の一部に加筆修正。

大正元年

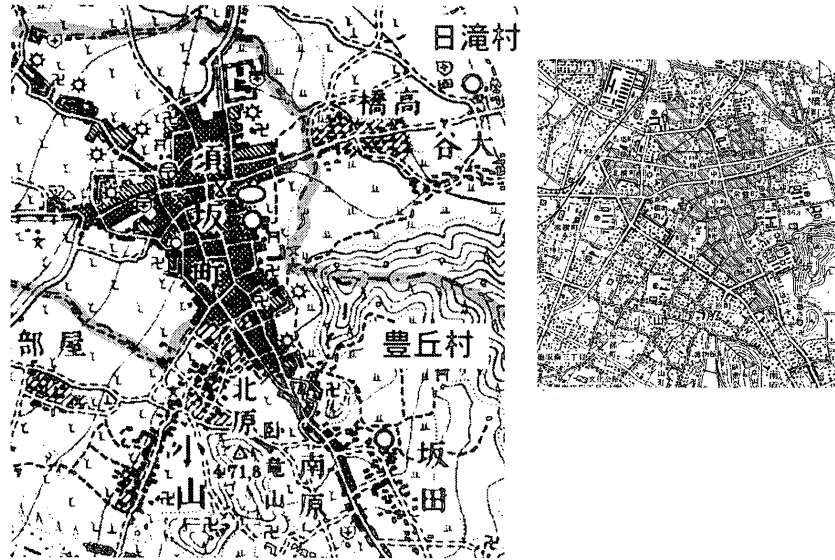


昭和27年応急修正

第5図 須坂市街地の変化

(昭和41)年に当時の長野市、篠ノ江市、松代町など2市3町3村が対等合併して成立しているからなのです<sup>3)</sup>。なお、中心市街地の大きさ(人口)はその都市圏(都市と関係の強い地域)と関係があるとされています<sup>4)</sup>。いふなれば、都市の実力を示すものなのです。

第1表は、2000(平成12)年の国勢調査における、長野県内上位10位までの市街地人口です。市町村人口で10位に位置する須坂市は、市街地人口では7位に上昇しています。こうしてみると、須坂市はなかなかの実力を持った都市ということができるとは思いませんか。



第6図 大正時代の須坂町と現在の須坂中心部

## (2) 過去の須坂をさぐる

国土地理院の5万分の1地形図を用いて、過去の須坂の様子をさぐってみましょう。大正元年図（1912年に測量した地形図）と、昭和27年図（1952年に応急修正した地形図）から須坂市中心部を抜き出したものが第5図です。

大正元年図では市街地の北方に塀で囲まれた病院があり、昭和27年図にも存続しています。現在の県立病院の前身です。市街地は南西にやや拡大したもののその大きさには、さほど変化が見られません。大きく変わったのは日滝村役場と豊丘村役場がみられなくなったことです。

先ほど、1922（大正11）年までは大字小山や大字坂田が須坂の一部ではなかったことを指摘しました。大正元年図において、行政区界を強調し、村の名称を書き加えたのが第6図です。なお、現在との位置関係をわかりやすくするために、1994（平成6）年発行の2万5千分の1地形図を並べてみました。本当は、地図の縮尺を示す物差しを入れるべきなのですが、第5図・第6図ではその変化の印象を強く理解してもらうために、あえてはずしてみました。地図をながめてみてください。どうです。須坂のシンボルの一つとされる臥竜公園周辺が、大正初期には須坂の一部でなかったことがよくわかりますね。

## 3. 須坂はどんどこ

地域を理解するためにはどのような資料があるのだろうか、どこで手に入れたらいいのだろうかということについて述べてきました。また、それらをどのように使えば、何がわかるだろうかということについて、市街地人口の資料や地形図の活用の仕方を例として示してみました。どうです、須坂の様子がわかるようになりましたか。あなた方も、いろんな資料を活用したり、現地を観察したりして、須坂の様子について調べてみませんか。

### Ⅲ おわりに

小学校低学年から中学校までの間に、具体的な観察調査を通じた地域学習が求められている。このことを実践するためには、適切な資料の選択とその利用のあり方が重要となることはいうまでもない。以上のことを踏まえてここでは、いかにすれば子どもたちがわかりやすく理解できるかを念頭に検討を加え、須坂を事例として、手引きとなる教材を提示した。今後は、より使いやすい効果的なものになるよう検討を加えていきたい。

本論は、2002年度須坂公民館「地域実践講座」で指導した内容を骨子としてまとめたものである。

#### 注

- 1) 学習指導要領では、「(1) 自分たちの住んでいる身近な地域や市(区, 町, 村)について、次のことを観察, 調査したり白地図にまとめたりして調べ, 地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする。ア 身近な地域や市(区, 町, 村)の特色ある地形, 土地利用の様子, 主な公共施設などの場所と働き, 交通の様子など」と記載されている。
- 2) 学習指導要領や長野県(2001)を参考とした。
- 3) 石澤(1992, 2003a)を参照。
- 4) 長谷川ほか(1992), 石澤(2003a)などを参照。

#### 参考文献

- 石澤 孝(1992): 都市の成立起源と成長過程—門前町長野と城下町松代の場合—. 信州大学教育学部紀要, 77, 83~109.
- 石澤 孝(2002): GISを用いた地域変容の把握—長野市を例として—. 地理情報システム学会講演論文集, 11, 221~224.
- 石澤 孝(2003a): ながの学ことはじめ—どうする長野—. 信州と地域, 1, 1~28.
- 石澤 孝(2003b): GISを用いた地域変容学習のための教材の有用性. 地理情報システム学会講演論文集, 12, 207~210.
- 須坂市(1998): 『須坂市の商業』.
- 須坂市(2001): 『須坂市の統計』, 『須坂市の農林業』.
- 須坂市(2002): 『須坂市の工業』.
- 長野県教育委員会(2001): 『長野県中学校教育課程学習指導手引書』, 『長野県小学校教育課程学習指導手引書』.
- 長谷川典夫・阿部隆・西原純・石澤孝・村山良之(1992): 『現代都市の空間システム』 大明堂.

(2003年12月11日 受理)